

HPAI の連続発生を想定した防疫演習の実施

紀北家畜保健衛生所
○筒井視有、橋本久彦
太田裕元

【はじめに】

本県では、平成 23 年の初発以降、計 4 件の HPAI が発生しているが、これらは全て単独の発生であり、防疫措置期間中に連続発生した事例は無い。一方、令和 4 年度は全国的に本病が発生し、防疫措置期間中の連続発生が複数県で認められた。そこで今回、本病の連続発生時の対応を確認するため、防疫演習を実施した。

【内容】

那賀管内の 2 戸 3 農場(A 農場、B1, B2 農場)を発生想定農場とし(図 1, 2)、A 農場、B1 農場の順に連続発生したと設定した。6 月から 9 月までに、関係者との事前協議を 4 回実施し、連続発生時に想定される課題の洗い出しとその対応策を検討した。その上で 10 月に実地演習を実施し、発生時の対応を確認した。演習後、参加者へのアンケート調査により演習の評価を行うとともに、関係者との事後協議を行い、演習を踏まえた防疫計画および振興局マニュアルの改正を行った。

【結果および考察】

関係者との事前協議では、①人員の確保②資材の確保③情報の整理の 3 点が連続発生時に想定される課題として挙げられた。①については、民間への早期委託、他振興局からの応援、②については、連続発生時の必要資材数の確認、③については、各農場における連絡要員の固定等が必要であると考えられた。実地演習には、民間団体、国、県、市町村の関係者が計 164 名参加し、設営(図 3)、集合・検診場所(図 4)、消毒ポイント(図 5)、現地防疫センター(図 6)、農場での防疫措置(図 7)など、発生時の作業手順について確認を行った。アンケート回答者は 87 名(回答率 60%)で、「役に立つ」「今後も参加したい」という肯定的な意見が 95%と多数を占めたが、「役立てづらい」「参加の必要性を感じない」という意見も 5%認められた(図 8, 9)。事後協議では、現行の防疫計画および振興局マニュアルについて意見交換を行い、今回の演習で確認された項目の修正を行った(図 10)。

事前協議にて連続発生時の課題や対策を確認し、演習ではそれを活かした対応を確認できたこと、演習をふまえた上で防疫計画および振興局マニュアルを改正できたことから、今回の演習は非常に有意義なものとなった。

今後も様々な場면을想定した演習を企画し、HPAI の発生に備え、関係者との連携強化と迅速な防疫対応を目指してまいりたい。

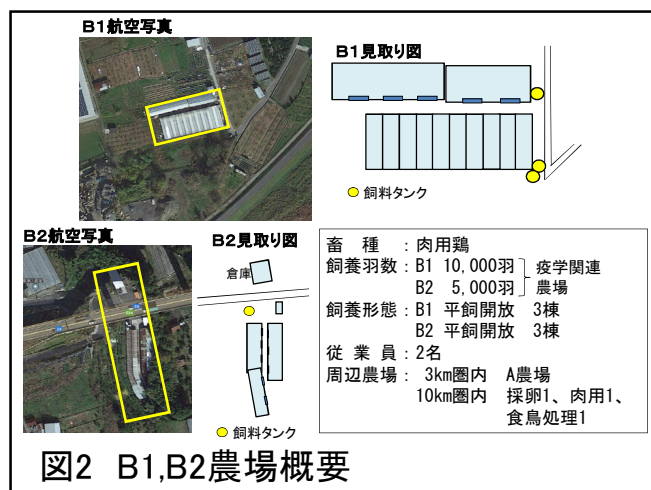
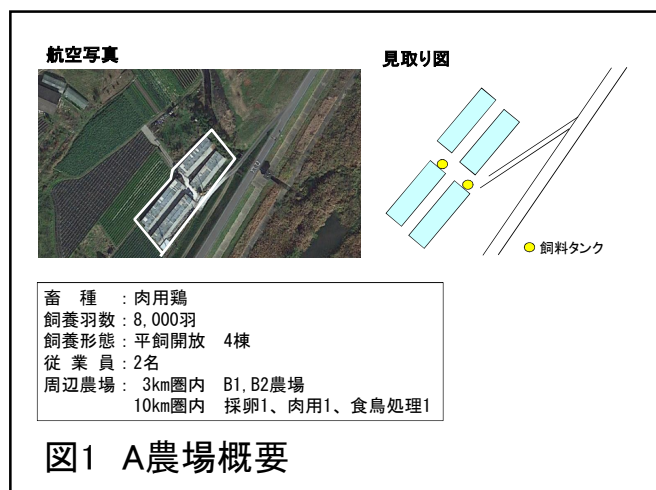




図7 農場作業(殺処分)

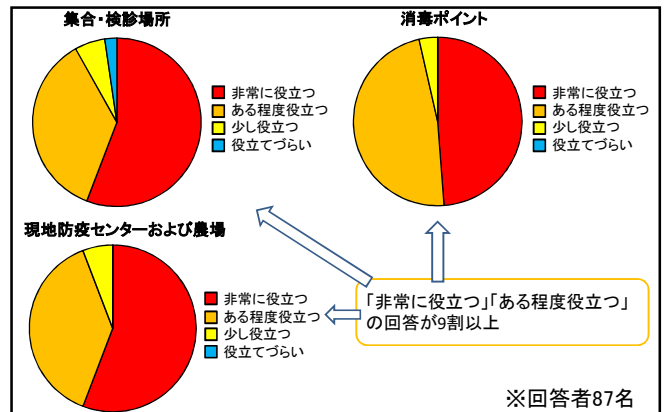


図8 アンケート結果(選択式)

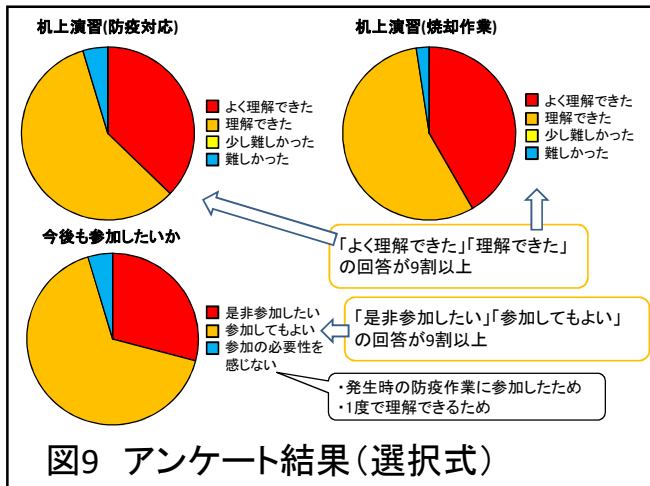
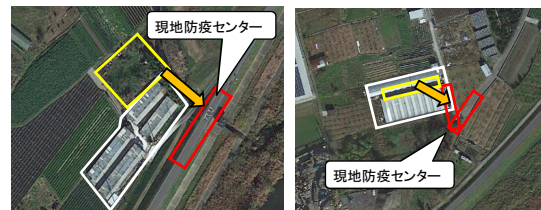


図9 アンケート結果(選択式)

○防疫計画の修正

現地防疫センター、集合検診場所など



○那賀振興局マニュアルの更新

図10 事後協議の結果